

令和6年度第1回 播磨町都市計画マスタープラン 及び立地適正化計画検討委員会 議事概要

◆日時：令和6年11月22日（金）15：00～17：10

◆場所：播磨町役場 第1庁舎3階 302会議室

◆出席者：

（委員）

太田 尚孝、佐伯 亮太、大瀧 金三、木村 晴恵、坂上 哲也、辻本 浩司、久保田 洋平

（事務局：都市計画課）

課長 安立圭一、計画調整担当課長 岡本光嗣、計画調整係長 浜名恭平、計画調整係主査 中村瑛

1. 開会

2. あいさつ

（平野副町長挨拶）

3 出席状況報告

（委員全員出席）

4 会長選出

（太田委員を会長に選出）

5. 協議事項

（1）播磨町都市計画マスタープラン及び立地適正化計画について

（事務局説明 資料1）

○会長

資料1の説明に関し、意見・質問をいただければと思います。

○委員

P22に都市計画税充当先の先細りとあるが、ということなのか説明していただきたい。

○事務局

都市計画税はこれまで下水道事業などに充ててきたが、現在では下水道の普及率が90%を超え、新たな整備事業が減少している。今の充当先は下水道の起債の返済であり、ゆくゆくは返し終えると受け皿がなくなる。都市計画事業がなくなるわけではなく、例えば都市計画道路でもいずれは改修が必要になるが、その際に立地適正化計画を作成しておけば、事業認可を受けずに都市計画税を充当できるようになる。

○委員

市街化調整区域を市街化区域にするには、隣接する加古川市と明石市との連携が必要ではないか。西二

見駅周辺では戸建て住宅やマンションが増えているが、市街化調整区域をどのようにしていくかを考える際にはやはり隣接市との連携が必要ではないか。

○事務局

北古田周辺は令和5年度より庁内で検討を着手しており、今年度より地域に入って住民説明会などを開催し、地権者とともにまちづくりの検討をはじめたところである。東野添については北古田と同じタイミングで動かすのもパワーがあるので、まずは北古田の状況をみながら方向性を考えていきたいと思っている。

○委員

この会議の主な目的や進め方について確認したい。この委員会は何の話をするものなのか。都市計画税を維持するための税金のあり方を話すのか、人口を増やすためのまちづくりを話すのか、具体的な道路を拡げたり明るくするといった話をするのか。

○事務局

立地適正化計画はこれからも持続可能なまちとしてどうしていったらいいのかを示す計画である。人口減少社会において播磨町があり続けるためにはどのような計画を作っていったらいいのかというところで、例えば、土山駅周辺の賑わいの創出などについて、役場内部でも議論を行っているが、外部の目からもご意見をいただきたい。

○委員

以前、都市マス策定時の委員会にも出席させていただき、その際に道路拡幅が必要など、まちの不備に対して意見を述べたが、できない理由を返されて結局実現しなかった。今回はどのようなレベルから話しても整理を付けていただけるという理解で良いか。

○事務局

幅広く意見をいただきたい。その意見を立適で受けるか来年度検討する都市マスで受けるかは、事務局で整理する。

○会長

資料のP11（居住誘導区域）、P12（都市機能誘導区域）のようなものをまずは事務局で考え、それが妥当かどうかをこの場で議論することになる。どこを居住誘導すべきかなどのシビアな線引きの話もいずれ出てくるが、それぞれの立場からその妥当性について考えて議論するというのが基本である。もちろん線引きだけで全てが解決するわけではなく、人口が減ったとしても播磨町が都市の機能を維持して住民が豊かにこれからも安心して暮らせるような環境をつくるということなので、質的な要素も出てくると思われる。まちは住む価値がなければ選ばれない。都市空間としてどこに都市機能を誘導するのか、居住を誘導するのか、誘導区域に入らないところをどうするのかなどについて考えていく必要がある。切り捨てをしたわけではないわけではなく、ただ段階はつけていく、それがメリハリという表現なのか、切り捨てという表現なのかは少し語弊があるかもしれないが、播磨町はコンパクトなまちなので、どこかを捨てるのか、そういう議論とは違うと思う。

○委員

播磨町はコンパクトで、行政効率是他の自治体より良いと思う。居住誘導は強制的に短期間で図っていくものではなく、長期的な取組も検討していきたいし、国の支援措置も得られるようにしたい。効率的な事業展開を図っていきたい。

○委員

P14 の評価指標と目標数値について、評価指標を他の自治体と同じようなものにすると、播磨町では目標が今とあまり変わらないかもしれない。都市基盤として何を重要視していくのかが評価指標に表れるので、これをどう設定するのか議論していきたい。20 年 30 年先に向けて都市基盤としてどういう点を重要視しながらデザインしていくかっていうことが、この評価指標の設定に現れてくるのではないと思う。

○事務局

播磨町ならではの評価指標を考えていきたい。

○会長

播磨町の場合は他の市町とは違い、人口も含めてかもしれないが、いかに魅力的なまちにしていこうかというのに資する計画が必要であろう。

(2) 都市の現況、住民意識・意向及び課題の整理について

(事務局説明 資料2)

○会長

資料2の説明は、どの自治体でもよく聞く話であり、それが近い将来播磨町でも生じうることだろう。播磨町特有の問題もあり、地域がコンパクトであるがゆえに施設が集積しているということもある。なお、資料2内の直面する課題や課題案の6点について確認してほしいということだが、これらは庁内や課内でワークショップを開催して整理したものだと聞いている。

○委員

地域コミュニティの希薄化が進んでいると感じる。以前は近所付き合いが活発だったが、最近はそれが減少している。解決策はあるのか。

○事務局

P36 の課題1でコミュニティのことを記載している。今すぐに解決策を出すことはできないが、これからの地域コミュニティの課題は、都市づくりの観点も持っておかないといけないと認識しているので、どうしていくのか考えていきたい。

○委員

次の班長が見つからないところが増えている。若い方はコミュニティのないところから来た人も多く、自治会に入る意味を理解していないのでコミュニティが希薄化している。また、自治会だけでなく商工会青年部や消防団やPTAも含め、前向きに参加されている人ばかりではない。

○委員

まちづくりアドバイザーになって5年、播磨町に住んで10年になるが、データを見ると播磨町は30代の転入率が兵庫県で最も高く、そのことを踏まえて地域コミュニティをどうとらえるかについて考える必要がある。通常は自治会＝コミュニティとすることが多いが、同世代は比較的いろいろとつながっているという感覚がある。自治会加入率は明石市で60%を割りそうになっているが、西隣の加古川市はまだ90%近くある。播磨町が町政60周年を過ぎて、村から都市化が進んでいるところでコミュニティをどうとらえるかにもよるが、まちの中にどれだけの居場所がどれだけあるかを考える必要がある。居場所は室内だけでなく、屋外の公園でもいいし、気持ちの良い木陰でも良いかもしれない。日本で一番自殺

率の低い徳島県の海陽町ではまちにベンチを数多く設置している。そこでの住民同士のゆるいつながりによって幸せになるのではないかという話がある。道路の際の座る場所、たまれる場所がある、ベビーカーを押して歩いて過ごせるまち、車いすで通行しやすいまちみたいなこともコミュニティに寄与するのかもしれない。

○会長

多世代の人と出会うことがないことが課題だとしたら、自然に誰かと触れ合える場所をつくるのも計画のポイントの一つかもしれないし、公園のように誰でも使える場所をつくっていくことが立適のポイントになるかもしれない。ただしその先のおつきあいの話しになると、個人の事情もあり、若い方がもともとお住まいの方と接点がないというのであれば、どちらも歩み寄る必要もあると思う。

○委員

土山の駅西側の踏切が危険であり、いつか事故起きるという話をいつもしている。駅の南北では電車利用者の送迎車によってとんでもない状況になっており、車の駐車場をつくるか通行止めにする必要がある。以前都市マス策定委員会のときにも質問したところ、BiVi 土山の駐車場を使えるとの話だったが誰も使っていない。また、役場前の道路（県道本荘平岡線）が暗く街灯を増やすことが必要である。通勤車の交通が多いこともあり、通学で使う道路を車が飛ばして危ないので速度規制や通行止めなども必要。駅周辺の渋滞、道の暗さ、狭さをなんとかしなければならない。

○委員

立適の中で謳う内容ではないが、土山駅周辺の道路については、県と協議しており、歩道整備などが現実的かと考えるが用地の確保などもあるため、駅北のまちづくりと連携する必要があると認識している。北側の車の混雑についても土山駅周辺のまちづくり検討の中で課題としてとらえている。街灯は道路の基準に従って設置しているが、暗いということであれば個別に対応したい。通行止めについては、警察や地元などと一緒に考えていきたい。

○事務局

小学校と連携してゾーン30などの速度が出ないようにする対策も含め、すぐに対応すべきもの、将来的なプランに落とし込む方がよいものに分けて議論していきたい。

○会長

操業環境や雇用などを含む広域的な話でもあると思う。ただし、中長期的にみると、需要があるからそれに乗っていくというのは対応しきれなくなる可能性がある。ライフスタイルや交通パターンは変化していくものであり、20年後の駅前はまだ違う姿になっている可能性もある。今の話は、マスタープランに関わる意見と、なんとかしてほしいという意見の2つが含まれていたと思う。

○委員

播磨町駅の利用は役場利用が多いということだが、現行の都市マスではシビック拠点として色んな交流を生み出しましょうとなっているが、都市マスでの拠点の位置づけと住民が思っている播磨町駅の利用方法と少しずれがある。土山駅周辺は今地元含めて検討が進んでいくと思うが、播磨町駅周辺ではどのようなビジョンを持っているか。播磨町駅周辺は公共施設がたくさんあるので、公共施設の更新とかも含めて計画にどう位置付けるのが重要だと思う。

○事務局

役場周辺では高齢化が進んでいる。また、比較的商売をしやすい近隣商業地域が指定されているが、そ

れにふさわしい土地利用がなされていないという問題を踏まえ、行政施設が立地しているという特性を活かしながら考えていかななくてはならないと思う。

○会長

課題に播磨町駅周辺についても記載すべきという意見であろう。

○委員

アンケート調査報告書を見たが、もっと細かい地域でここはどういう課題や要望があるのかなどを見ていくことが大事だと思う。

○事務局

地域ごとに見ていくのは大事であると認識しており、都市マス地域別構想の3区分で見していきたいと思っている。

○委員

北部、中部、南部の分け方では漠然していると思っていたので、ある程度細かいところまで見ていくことが大事である。

○委員

都市マスの地域別構想の3区分である北部、中部、南部だとよくわからない。コミセン区などこれまでに使われている既存の区分で分析したほうがわかりやすいと思う。ゾーン分けは住民の感覚で理解できるようにすることが他の計画との親和性も高まるのではないかと思う。

○委員

3区分よりも北部と南部の2区分のほうがすっきりする。播磨町は元々コンパクトで、他の市町で設定する一つのエリア単位の町域となっているので、一定規模の内容であれば都市計画の中で対応できると思うが、各地域単位など個別の課題をどこまでこの計画に盛り込めるかは検討頂きたい。

○事務局

北部、中部、南部の3区分で良いのかという議論は事務局内でも出ている。どこまで踏み込めるか考えていきたい。

○委員

歩きやすい・歩きたくなる環境づくりとはどのようなものか。

○事務局

駅を軸として町内を歩いて巡ってもらえるような意図を含めている。

例えば播磨町駅は歩ける範囲に行政施設が集積するエリア、土山駅は歩行者によって賑わい生み出すエリアなどにするほか、住民の方以外も町内を巡って頂けるような都市づくりを考えたい。

○委員

一般に立適はまちをコンパクトにしていこうとするものだが、播磨町が向かおうとしている状況としては市街化調整区域を市街化区域にする方向であり、立適の考え方とは矛盾する。他の町とシチュエーションが違っているので、立地適正化計画自体の使い方も違うと思う。その辺のある意味矛盾を含むストーリーをどう考えていくか検討していきたい。

○事務局

播磨町の立適は、まちを縮小させていこうとすることに主眼を置くのではなく、もともとコンパクトなまちであることなどの特性を生かしながらまちの魅力向上を図ることで町の持続可能性を高めていこう

とすることを目的に作成していきたいと考えている。

○長

最後に２点ほど説明してこの議題を終わりたい。１点目は委員会として何を検討するのかを考える必要があるということ。アンケートは４割が回答しているが、これは、半分は意見を言っていないということ。それぞれの立場からもあると思うが、播磨町はコンパクトで地域のイメージはできると思うので一住民あるいは住民の代弁者として具体的な話をしていただくのが重要である。また、播磨町ならではのきめの細かい課題抽出も必要である。２点目はこういった空間の範囲で考えるか、加古川市、明石市、稲美町があったうえで播磨町が成り立っており、播磨町だけで完結できる話ではない、といったことを前提にどのような視点で何を考えるかを議論する必要があるということである。周辺の市町にあるものもうまく使って win-win になる関係性を作れるよう議論していきたい。

６．その他

（次回検討委員会の日程は令和７年２月１８日（火）午後で調整）

７．閉会

以上